

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもみらいサポートあくしす西鈴蘭台		
○保護者評価実施期間	R6年11月1日		R7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	R6年11月1日		R7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月15日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ねらいに沿った集団療育と個別療育の実施。	・プログラムごとにねらいを設定し、ねらい達成のために適切な支援が行えるよう、立案書の作成→実施→評価→改善のサイクルで日々の支援を行っています。 ・お子様の課題に応じた教材を準備し、必要に応じて個別療育を実施しています。	・今後も立案の改善を行い、より専門的かつ連携の取れた支援が行えるようにしていきます。 ・さまざまな視点から一人ひとりのお子様と向き合い、課題に対して的確なアプローチができるようにしていきます。
2	・クッキングや行事イベント等の活動の豊富さ。	・クッキングや行事イベントを多く取り入れ、将来の自立や就労に向けてさまざまな経験を積めるようにしています。また、異年齢での関わりの中で、年上の友達に助けをもらう・年下の友達に教える機会を作り、思いやりの気持ちを育めるようにしています。	・引き続き、クッキングや行事イベントを豊富に取り入れ一緒に経験を積んだり、思いやりの気持ちを育めるようにしていきます。また、地域の活動に参加する機会も設け、経験の幅を広げられるようにしていきます。
3	・他のあくしすの児童や職員との交流。	・他のあくしすとの合同イベントでお子様同士の交流ができるようにしています。また、職員間も委員会や各種会議などで横土の繋がりを大切にし常にスキルアップできる関係性を作っています。	・引き続き他のあくしすとの関わりの機会を設け、お子様同士の交流の場を設け、職員間であくしす全体での支援力の向上を目指していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設環境の老朽化と活動によってスペースの狭さがある。	・長期にわたってご利用いただいているお子様も多く、身体も大きく成長されていることから、活動によってスペースに狭さが出てきています。	・事業所を移転し活動スペースを拡大することで、お子様がのびのびと体を動かし、心身を発散できるようにしていきます。また、今後もお子様一人ひとりにとっての安心できる居場所となるよう、温かな雰囲気と環境づくりに努めていきます。
2	・一人ひとりの児童の年齢やレベルに合わせた活動提供の難しさがある。	・曜日によって、お子様それぞれの年齢やレベルの幅が広いこともあり、集団での同じプログラムの実施が難しいことがあります。	・事業所移転に伴い、環境的にも年齢やレベルに応じた小集団での活動がしやすくなるので、内容に応じてグループでの活動を取り入れていきます。また、ペアで助け合う等異年齢ならではの活動も取り入れ、一人ひとりに合わせた活動の提供ができるようにしていきます。
3	・学校や他施設との連携をより取っていく必要がある。	・送迎時の申し送り以外で十分な時間を取りやり取りを行える機会が少ないため、統一した支援を行うために連携の機会を増やす必要があります。	・学校や他施設に積極的にアプローチし、お子様一人ひとりについてじっくりと話し合う機会を少しずつ増やしていきます。学校や他施設との共有の場を増やすことで、お子様に対して一貫した支援を行い、課題に対してより効果的なアプローチができるよう努めていきます。